

「大高雄治水論壇(2012 Taiwan Kaohsiung Water Management Forum)」参加報告

研究部門 主席研究員 渡邊 茂

1. はじめに

台湾の高雄市において4月25日(水)、26日(木)の2日間、「大高雄治水論壇(2012 Taiwan Kaohsiung Water Management Forum)」が開催され、6つの国と地域(アメリカ、オーストラリア、オランダ、韓国、台湾及び日本)が参加して講演や座談会を行ないました。日本からは渡邊が参加し「水辺は進む - Riverfront Improvement in JAPAN -」と題して発表を行いました。



写真1 フォーラム開幕を伝える新聞

2. フォーラムの概要

このフォーラムは、世界各地で異常気象による災害が頻発する中、都市の水害対策、水資源利用、河川整備、水域管理や災害救助活動などについて幅広く議論し交流を深める目的で開催されたものです。

日時：平成24年4月25日(水)、26日(木)9:00～17:00

場所：漢来大飯店(高雄市)

主催：高雄市政府水利局

参加者：約400名(専門家、行政、団体、報道など)



写真2 フォーラム会場の様子

【1日目 4月25日(水)】

開会にあたり主催者を代表して、高雄市劉世芳副市長より挨拶があり、続いて円卓フォーラム(論壇圓卓會議)により発表者(主講人)からそれぞれ簡単な挨拶をした後、下記①～⑥の講演が行われました。

- ① 緑あふれる都市の水管理(緑色城市的水管理)
水利署：楊偉甫署長(台湾)
- ② 変化する洪水リスクに対する都市の対応
- アジアに適した戦略に向け、オランダの経験から-
(Adapting Cities to changing flood risk : From Dutch/European Experience towards strategies suitable for Asia)
UNESCO-IHE : Assela Pathirana 教授(オランダ)
- ③ CSA、REDD+及びBCによる低炭素戦略と治水機能(CSA、REDD+及びBC減_策略中所兼具的治水防災功能)
中山大學海洋環境工程學系：楊磊教授(台湾)
- ④ 東南クイーンズランド州の水を活かした都市の紹介-これまで、今、これから-
(South East Queensland' s journey to being a water sensitive city : past , present and future)
ブリスベーン市国際水センター：Fiona Chandler
プログラムマネージャー(オーストラリア)
- ⑤ 気候変動への対処や適応(氣候變遷的因應與調適)
内政部 部長：李鴻源(台湾)
- ⑥ 水上安全、水上救助
釜山広域市消防本部副本部長：鄭完澤(韓国)



写真3 円卓フォーラムの様子

釜山鎮消防署消防行政課長：李紀沃(韓国)

この日はフォーラム後に、台湾の生涯教育活動を行っている社団法人社区大学全国促進会の主催によ

る国際交流会が開催されました。高雄市の顔となっている愛河において老若男女を問わず活発に活動している高雄市文化愛河協会の紹介などがあり、台湾でも川を舞台にした市民活動が盛んなことを感じました。



写真4 高雄市文化愛河協合理事長(右)と

【2日目 4月26日(木)】

1日目に引き続き、下記⑦～⑫の講演が行われました。

- ⑦洪水被害軽減及び流域管理戦略の総合的実施
(Integrating Flood Mitigation with Watershed Management Strategies)
ノースカロライナ州立大学シャーロット分校土木工
程系：吳知行教授(アメリカ)
- ⑧高雄広域市の治水概要(大高雄治水綱要)
成功大學防災研究センター：謝正倫教授(台湾)
- ⑨総合治水対策の新戦略(流域総合治水新思維)
中華民國水利技師公會全國聯合會 理事長：陳明信
(台湾)
- ⑩都市開発における流域治水計画と洪水被害軽減
(Watershed Planning and Flood Mitigation in Ur-
ban Development)
URSヒューストン支店：張濟群總監(アメリカ)
- ⑪高雄市中都湿地公園における景観デザインの実践
(高雄市中都湿地公園：景観工程實務分享)
中華民國景観學會：郭中端理事(台湾)
- ⑫水辺は進む- Riverfront Improvement in JAPAN -



図1 発表内容の一部

公益財団法人リバーフロント研究所：渡邊茂(日本)

⑫では、日本の河川事業の体系や昨年出版された「多自然川づくりポイントブックⅢ」の背景・内容などについて説明しました。特に、川には水が流れるだけではなく、水とともに土砂や栄養塩なども流れていく、さらに人や物を運び、文化を伝える幅広い機能があると捉えていて、川全体の自然の営みを視野に入れた河川管理に取り組んでいることを紹介しました。

フォーラムの最後に、発表者と高雄市長・副市長が登壇し、総合座談会が行われました。高雄市政府水利局の李局長が各発表をまとめ、会場から「河川を直線化したけどもっと工夫できたのではないか」「都市と郊外を仕切るバッファゾーンが必要ではないか」「水道有効利用率を高めるべき」「ヒートアイランド対策の緑化が必要ではないか」など幅広い質問・意見が出され、熱心な議論が続きました。中には「東京に学べ」との声も出て、誇らしく感じるとともに台湾が日本に大変親しみをもっていることを実感しました。



写真5 フォーラム後、高雄市長・副市長を囲んで

3. おわりに

今年4月から従前の「リバーフロント整備センター」は「リバーフロント研究所」に移行しました。これを海外で発信する第1号という点からも今回のフォーラムは絶好の機会となりました。

最後に余談となりますが、交流会で“上を向いて歩こう”を披露したところ、世界各地から集まった皆さんもスキヤキソング!と大喜びで、コミュニケーションの貴重な財産を日本人に残してくれた坂本九さんに深く感謝しました。このように日本から海外へ発信するとともに日本を海外からの視点で見る機会をいただいた、高雄市政府水利局はじめ台湾の皆さまや建設技術研究所伊藤一正技師長に厚く御礼申し上げます。

これからもこのような技術交流がますます盛んになることを期待して結びといたします。